

注意報発令

玉葱の白色疫病について

山口県より玉葱の白色疫病について注意報が発令されました。県内一斉調査で発生圃場率39.4%（平年4.8%）となっています。下記の対策をして下さい。

記

1. 水媒伝染する為、圃場の排水を良好にする。
2. 発生している圃場は、治療効果の薬剤を用いて直ちに防除する。
リドミルMZ水和剤、ホライズンドライフロアブル、
プロポーズ顆粒水和剤
3. 多発生圃場では玉葱の連作を避ける。
4. 薬剤耐性菌の出現を防ぐ為、同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤の輪用は避ける。
5. 農薬使用基準の遵守。

玉葱べト病の発生について

このことについて、山口県病害虫防除所のデータによると、平年よ

りやや多い状況です。下記の対策を実施して下さい。

記

- 1 . これまでに薬剤による防除が未実施の場合は、直ちに実施する。
また、二次感染株を確認した場合は、治療効果のある薬剤で直ちに防除を行う。白色疫病と同時防除が可能である。
リドミルMZ水和剤、ホライズンドライフロアブル、
プロポーズ顆粒水和剤
- 2 . 薬剤耐性菌の出現を防ぐ為、同一薬剤の連用及び同一系統の薬剤の輪用は避ける。
- 3 . 農薬使用基準の遵守。



白色疫病

葉身中央部や、やや先端寄りに暗緑色油浸状病斑を生じ、病斑部を内側に
して葉身が曲がる。乾燥にあうと病斑は白色になる
発病初期の症状：葉先が白変し、下垂する。寒冷による生理的な葉先枯れ
とよく似ているが、本病のほうが枯込みの度合が速く、枯死部が蛇腹状に
なることがある。

べと病



淡黄緑色、長楕円形の病斑ができ、表面に灰白色～暗緑色のカビをそう生ずる（進
行型病斑）灰白色のくぼんだ微斑紋を同心円状に生ずる（停止型病斑）
越年罹病株上には、全身に白色のつゆ状または暗紫色のカビが観察されることが
多い。カビは2～3月に降雨があり多湿で、気温が10以上の条件で形成する。
胞子を1～2回形成すると枯死する株が多い。